
VRMMOネタを作る

まめ太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

VRMMOネタを作る

【Nコード】

N6863U

【作者名】

まめ太

【あらすじ】

VRMMOを小姑的にネチネチ言ってみた。

わたしは自称、小説家。

いや、作家の卵。いやいや、物書きになれたらいいなーとか思ってるドリーマー。

いいじゃないか、夢を見るのは自由だろう。

色々あってここ、『小説家になろう』というコミュニティへ来て創作活動にいそしんでいるわけだが、なんというか、さっぱり振るわない。なろうコミュニティのシステムでは、評価点というのがあって、ランキング制が導入されている。このランキングに載ることを、とりあえずの目標に据えているのだが、まったく掠りもしない。何が悪いのか、自問自答の日々だ。

ハーレムとかチート、最強主人公が受けると聞いて、なろうで主流の一人称小説でそういう題材を扱ってみたが、やはり駄目だった。作者自身とはかけ離れた主人公を据えたせいで、書くこと自体が苦痛になってしまったし、エタることは確実だ。エタる、というのは2ch用語かな？ つまり、完結を迎えることなく途中放棄されるという意味だ。

それでも懲りずに、なんとか受けそうなストーリーなどを考えてみる。今の流行りはVRMMOか。バーチャルリアリティを導入した大人数参加型ネットゲーム。これを考えてみようか。

ちょっと考え付いたネタがある。VRMMO世界でプレイ中の人間が、肉体を殺されてしまって帰れなくなって、とかそんな話を思いついた。

ネットとなりそうな点は、INしている最中に肉体が無くなったらどうなるのか？という部分にある。VRでは人格をそのままゲーム世界に送り込むことになるのだが……え？ ちょっと待て、そん

な必要ないだろ。今、現実に出回っている3D、あの応用で十分に可能になる、人間の側をデータ化する必要はない。

こないだテレビで出ていた、福島原発の内部を撮影したロボットカメラ、あれの原理の応用だ。つまり、プレイヤーの視界が360度パノラマになり、直接、ロボットアイと連動して、自身の目や耳で見たり聞いたりしたように錯覚させるだけでいいはずだ。

電脳世界にプレイヤーの分身となる端末プログラムがあり、それは端的には目と耳だ。そこにポリゴンの表皮が貼り付けられるだろう。ポリゴンの範囲指定座標に被ってきたマテリアル毎に計算……つまり、サブルーチン化したパターン別の計算作業が為され、攻撃を受けたとか木にぶつかつたとかの動作ダメージの処理がされるはず。

算出された数値に従って、偽の痛覚データが脳に送り込まれることになるのだろうか？

要するに、脳みそと電脳世界の端末が繋がれば、わざわざ人間の膨大なデータを数値化する必要はない、という事だね。さらに言うなら、脳みそが直接データのやり取りを可能にするなら、電脳側にはポリゴンの詳細な描写データも必要ない。それは脳みそに負担してもらえばヨロシ。

プレイヤーの人格をデータ化してゲーム内で再構築して云々なんでは、色々とネックがありすぎるので、まあ、実用化されるとしたら、3D応用ってことになるだろうな、という結論だ。

とまあ、いつの間にやらVRMMOトリップの設定を全否定してしまったりして、どうにも仕方無い状況に陥っている。

言っている意味が解からない人も出てくるんだろうな、先に詳しく説明しておこうか。

【従来のVRMMO】

プレイヤーの意識そのものをデータにして、ゲーム世界へ送り込

んで再構築。肉体は空っぽ。

【3D型VRMMO】

プレイヤーに同調する肉体データがゲーム世界に存在している。肉体は感覚が切り離されている。夢を見ている状態に近い。(が、レム睡眠時の意識の在り様と従来型の意識的取り扱いの関連およびその違いなんてのは説明するのも面倒くさい。)

そして、整理してみると、上の二つがごっちゃになってるVR作品がわりと多く見受けられるなとも思ったり思わなかったり。それぞれどうこんがらがってるかは自分で検討してくれ。

3D型と従来型とのプレイ上での違いは、タイムラグとかになるのかな？ 動作の一つ一つを電気信号でやり取りする以上、回線速度によってブレが生じるわけで、それがタイムラグと言われる現象。画面が重いとかの言葉を聞いたことがあるだろう、あれがブレである。ダンジョンに潜っていて、敵が湧かないなーとか思っていたら、突然死んでしまった、とか……アレだよ、アレ。こっちに伝達されるまでに時間が掛かって、実際には敵が湧き出たフルボッコされてた、とかいう事が混み混み回線では稀によく起きるんだ。

そういう違いを踏まえて、PVPで有利にしたい廃人なんかが従来型の方法を取るみたいな設定も面白いのかも知れない。けれど、その場合にもやはりネットワークは存在していて、意識の所在という大問題にぶち当たるので、従来型を採用し、なおかつSFと銘打つつもりならば人間の意識をどうやってデータ化したのかという説明を抜きにして欲しくはない。

それは、人間の意識とはなんぞや？ 魂とはなんぞや？ という、往年の普遍的テーマに抵触するからだ。無視して通るなよ。SFのSは、サイエンスのSだ。

ファンタジーでも、サイエンスと付けるのなら、科学にはコダワリ見せてくれ。

とこの形式は、小説としては何小説と言ふべきなのか？
私小説？ …… エッセイですか、さいですか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6863u/>

VRMMOネタを作る

2011年7月8日03時24分発行